

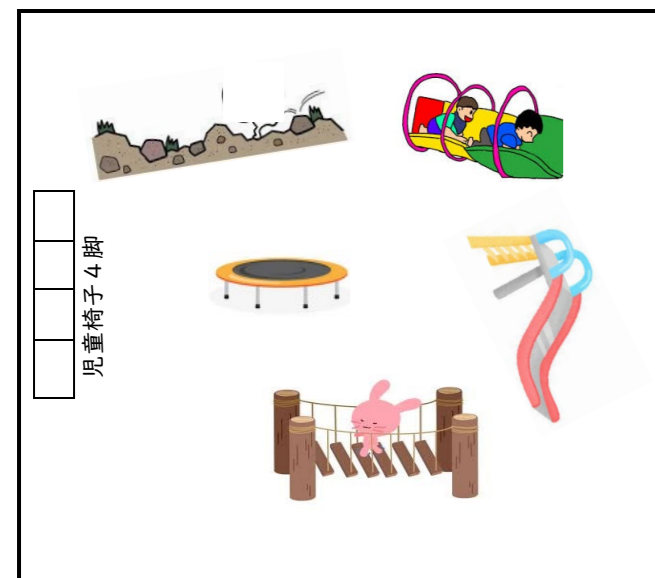
授業づくりシート

領域名 自立活動

1 学年

テーマ	たくさん身体をうごかそう	
事例児の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味が無いものに関しては気持ちが全く入らない。音や音声機器への執着が強く、活動に参加できないことがある。音楽が流れると楽しさのあまり全身に力が入る。 (心理的な安定) ・全体的に歩行のバランスが悪く、ふらふらしていることが多い。体幹が弱く、着席時は姿勢が崩れやすい。(身体の動き) ・手元や足元への注目が薄く、物をよけて歩く意識が低い。 (身体の動き) ・繰り返しの活動であれば、具体物を見て次の活動の大まかな見通しをもつことができる。 (環境の把握) 	
事例児の個別目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でバランスを取ったり、踏ん張ったりして歩くことができる。(身体の動き) ・道具を見て足でまたぐ、かがんでくぐるなど自分で姿勢を変えることができる。 (環境の把握、身体の動き) 	
活動内容と具体的な手立て		
活動内容	ねらい	具体的な手立て
ミニサーキット	・自分でバランスを取ったり踏ん張ったりして歩くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・足元の凸凹が直接感じられるように靴を脱いで行う。 ・適度に凸凹した道を設定し、転倒には十分気を付ける。
	・道具に応じて姿勢を変えたり、足を高く上げたりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・道具を見て活動(またぐ・くぐる・上るなど)ができるような教具を用意する。 ・動きが止まるときは腰に手を置き、姿勢転換のきっかけをつくる。

○場の配置



○教材教具等



○展開

時配	活動内容	教師の支援等
9:50	<ul style="list-style-type: none"> ○プレイルーム前で靴と靴下を脱ぐ ○始めの挨拶 ○呼名(返事とハイタッチ) ○準備体操(マッサージ) かまきりマッサージの曲に合わせ、もむ・たたく・ローラーの3種類の刺激。 ○ミニサーキット でこぼこ道(歩く) フープくぐり(四つ這い) 滑り台(上って滑る) 揺れ橋(またぐ) トランポリン ※様子に応じて内容を変更したり難易度を上げたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で脱ぐ動きを大事にし、靴下の裏返しは直しておく。 ・スライドで、全員が注目していることを確認してから行う。 ・対面で呼名をし、手の平を見せながら片手を高く上げハイタッチを促す。肘を伸ばして届きそうな位置に手を誘導するが、実態に応じて高さは調整する。 ・揉む動きでは、指先ではなく手の平全体を使って行い、本人の表情を見ながら刺激の強さを変えていく。 ・力を抜いて刺激を受けているか表情や緊張を確認する。 ・音楽を流すと音源が気になって動きが雑になりがちなので、音声機器を見えない場所に置いたり音量を調整したりする。 ・道具を見て動きがわかるような流れにする。 ・足元を見て活動できるように必要に応じて足元を指さしたり言葉をかけたりする。自分でボディイメージをもって姿勢を変えられるように考えたりや姿勢変換したりする時間を大事にするため、基本的には支援は少なくなる。 ・トランポリンは楽しみにしている活動なので、数を数えて終わりをわかりやすくする。 ・活動のスピードが一人一人異なるため、接触等の怪我につながらないように気を付ける。
10:10	<ul style="list-style-type: none"> ○靴下を履く。 ○終わりの挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ・実態に応じてつま先に被せたり、引っ張ったりする支援を行う。 ・一人一人頑張ったところを称賛し、自信へとつなげていく。全員が注目したところで号令をかける。

○成果と課題

○プレイルームを使うことで、裸足で活動ができたので、足裏全体で踏ん張っているのか、つま先なのかなどがわかりやすかった。週後半は慣れてきた、疲れてきたなど児童の様子に応じてでこぼこ道の難易度を調整できたのはよかった。

○フープくぐりでは、大きさの異なるフープを使用したため、大きさに応じて全員がかがむ姿勢を変えることができていた。既成の滑り台や最後にトランポリンを使用することで、楽しみながら活動を行うことができた。

△一つ一つの活動をじっくり慎重に取り組む児童から、気が急いで素早く取り組む児童とスピードの差が大きく、サーキットの中でも待ちが出てきてしまうことがあり、2コースを作ることを検討してもよかった。